

論文審査の結果の要旨および担当者

| | | | | |
|------|---|---|---|---|
| 報告番号 | ※ | 甲 | 第 | 号 |
|------|---|---|---|---|

氏 名 NARIN PISETH

論 文 題 目

Factors associated with HIV testing among the general male population in Cambodia:
A secondary data analysis of the Demographic Health Survey in 2005, 2010, and 2014

(カンボジアの一般男性における HIV 検査受検に相関する因子の検討：2005 年、2010 年、2014 年の人口保健調査の二次分析)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委員

若 井 建 志 

名古屋大学教授

委員

木 村 宏 


名古屋大学教授

委員

八 木 哲 也 

名古屋大学教授

指導教授

濱 嶋 信 之 

論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2





2005年、2010年、2014年のカンボジア人口保健調査（DHS）データを二次利用し、15-49歳のカンボジア一般男性におけるHIV検査受検に相関する因子を解析した。HIV検査受検者の割合は、2005年から2014年の間に14.7%から36.4%に増加していた。HIV検査受検との相関因子は、調査時期（2010年と2014年）、年齢（20-35歳と36-49歳）、居住地（都市部）、教育歴（高学歴）、裕福度（裕福）、農業以外の職業、婚姻歴、2人以上の性的パートナー、最後の性交渉時のコンドーム使用であった。相関因子には性感染症の症状や診断の既往が含まれず、HIVリスク行動因子より人口統計因子が多かった。カンボジアで一般男性のHIV検査受検者を増やすためには、小学校での生殖保健教育実施と性感染症患者に対する医療従事者主導のHIV検査とカウンセリングの強化が必要であると考えられる。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. カンボジアにおける主要なHIV感染経路は、セックスワーカーから配偶者やパートナーからの感染に変わってきた。カンボジアの一般人口において、抗レトロウイルス療法を受ける割合や、HIV感染の罹患率および死亡率は女性よりも男性で高い。女性に比べると男性は医療サービスを利用しない傾向にあることは理由の1つとして考えられるが、これまでに一般男性のHIV検査受検に相関する因子が明らかにされていないことより、本研究の対象者を一般男性とした。
2. HIV検査サービスは公立のみでなく私立医療施設でも行えるようになり、検査へのアクセスがかなり改善してきた。VCCTデータは公立施設からのみの報告であり、私立施設におけるデータは収集されていないが、私立施設でのHIV検査受検者が増えている。それに伴い、VCCTサービスはHIV感染リスクがある人に対して感染を確かめるために用いられる状況になってきたため、HIV陽性率が高くなってきたと考えられる。
3. VCCTサービスは、HIV検査を行いたい人やHIV感染しうる状態に暴露された人が自発的に受診する国策プログラムである。医療従事者主導HIV検査は、医療施設を受診した結核患者、妊婦検診受診者、性感染症患者などのHIV検査結果を知ることが本人にとっても公衆衛生学的にとっても有益であると思われる人を、医療従事者がHIV検査を受検させるものである。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

| | | | | |
|---|-----------------|---|-----------------|---|
| 報告番号 | ※ 甲 第 | 号 | 氏 名 | NARIN PISETH |
| 試験担当者 | 主査 | 若井 達志  | 副査 ₁ | 木村 宏  |
| | 副査 ₂ | 八木 哲也  | 指導教授 | 濱嶋 信之  |
| (試験の結果の要旨) | | | | |
| <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の対象者を男性のみにした理由について 2. VCCT受診者の減少とともにHIV検査陽性率が上昇した背景について 3. VCCTと医療従事者主導HIV検査の違いについて <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、医療行政学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p> | | | | |